

NEWS RELEASE

平成22年1月4日

デジタル、グローバル領域の成長を進め、新しい時代を築く

—電通新年仕事始式で高嶋社長があいさつ—

株式会社電通（高嶋達佳社長）の平成22年仕事始式が、1月4日午前9時50分から東京本社他で開催された。東京本社の仕事始式は汐留本社ビル1階電通ホールで行われ、高嶋社長が年頭の所信を述べた。要旨は以下のとおり。



電通グループの次の時代のために、一昨年から続けている「改革」のさらなる推進と、新しい「組織構造」や「制度」、そして「ビジネスモデル」の構築に向け、新たな覚悟を持って、この一年取り組んでいく。

現在、昨年7月に発表した中期経営計画に基づき、様々なイノベーション・プロジェクトが進行しているが、確実に成果が現れており、引き続き改革を推進していく。私たちは、不透明なビジネス環境の中で、克服せねばならない問題を多く抱えている。私たちのビジネスがボーダレスになっている中、その時代、時代に合った変化をしていく必要がある。日本経済は厳しい状態が続いているが、ひとたび海外に目を転じれば、BRICsなどの新興国の台頭により、長く続いた世界の勢力図が変化してきている。3年から5年後には、世界経済の勢力図は、明らかに今とは異なる姿となっているだろう。

また、モノづくりから流通の仕組み、そしてメディアや広告にいたるまで、ビジネスそのものの構造が大きく姿を変えていく中、私たちは、豊かな想像力を駆使して、新しい時代をダイナミックに築きあげていく必要がある。電通グループが進化するプロフェッショナル集団に「生まれ変わる」ため、自信を持ってさらなる改革を進めていかねばならない。

来月2月にはバンクーバーにて冬季オリンピックが開催され、6月にはサッカーワールドカップ南アフリカ大会もある。さらには、5月から、上海国際博覧会が開かれる。今年は、これらのイベントによって、世界中が明るく湧き上がり、希望の持てる一年になることを期待している。

2010年に私が力を注いでいく点について申し上げたい。

一つ目は、デジタル領域の成長に向けての強化である。1月5日には電通デジタル・ホールディングスを設立し、電通グループのデジタル事業を一元化し、スピード感のある経営を進めていく。世界的に、進化が続き、今や全てのコミュニケーション活動でキーテクノロジーとなりつつあるデジタル分野において、特に日本が先行しているモバイルや、デジタル・テクノロジーの領域における強みを活かしながら、世界の各地域でデジタル領域のケイパビリティを強化し、競争力のある基盤を作り上げ、成長を促していく。

二つ目は、グローバル化のさらなる推進である。米国、欧州、そして中国においてはこの1、2年でもかなり体制が整い、実績も出てきた。そして、2010年においては、特に、インド、アジア諸国、ロシア、そして南米などの地域で、成長のための基盤の整備と拡充を進めていく。私たち電通グループは、メガエージェンシーの後塵を拝すのではなく、電通グループならではのエージェンシー・モデルの構築に挑戦していく。

最後に、人材育成プログラムについてである。経営知識やノウハウを習得し、クライアントやメディアの経営課題や事業課題に対してソリューションを提供できる人材、そして、グループ経営を強化するための経営の専門性の高い人材を育てるため、4月から、複数の育成プログラムを開始し、毎年継続的に実施していく。さらに、今年はグローバル規模での幹部人材育成プログラム、ならびに現地法人を対象とした新人事制度の開発・導入にも着手していく。

電通グループが新たな潮流を作り上げていくためには、一人一人に知恵と大きなエネルギーを発揮してもらうことが必要である。是非とも、皆さんと共に「Good Innovation.」を実現していくために、気持ちを一つにして、地に足のついたプロセスを着実に歩んでいく一年にしていきたいと思う。